

第5回トラック輸送における取引環境・労働時間改善
中央協議会及びトラック運送業の生産性向上協議会

貨物自動車運送事業における生産性向上に向けた調査事業

～ 経過報告 ～

2017年02月01日

株式会社野村総合研究所
コンサルティング事業本部

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル

目次

1. 経過報告

P2

2. 調査結果概要

P7

3. モデル事例概要

P19

4. 今後の予定

P23

1. 経過報告

2. 調査結果概要

3. モデル事例概要

4. 今後の予定

1. 経過報告

1) 荷主業界ごとの商慣行・商慣習の調査・対策検討

■ 調査概要

- 調査対象とした10業種に対して、既存文献等から課題仮説や効率化施策を念頭に荷主とその委託先である貨物自動車運送事業者へのヒアリングから明らかにし、コンサルティングとしてその結果をフィードバックする際に実施すべき施策を提案した。施策を実施する企業に対してはフォローアップで施策実施後の効果を把握している。
- また、調査結果は、「手引き」として取りまとめて、貨物自動車運送業界へと周知するために1～2月に地方含めて9箇所でセミナーを開催する。

■ 経過報告

- 10業種の調査が完了(約80社の荷主やトラック事業者へのヒアリングを実施)報告書を作成し、手引きを作成
- 荷主やトラック事業者30社に対してフィードバックを実施し、モデル事例のコンサルを実施中

■ 今後の活動

- 10業種の調査で得られた結果から作成された手引き(主に前半にあたる)を使ったセミナー(後述)開催
- モデル事例化を目指したコンサルを継続

1. 経過報告

2)事業の共同化による積載率向上の事例調査

■調査概要

- 既に貨物運送事業者の生産性向上の取り組みの事例を調査し、手引きとして取りまとめる。特徴としては貨物運送事業者単独での生産性向上は限界に来ており、荷主と連携した取り組みが有望となっている。これら有望事例を既存文献などから明らかにし、事例については、関係者へのヒアリングで特に生産性向上に至るプロセスを明確にし、手引きの一部として取りまとめる。
- 調査結果は荷主やトラック事業者を含めたワーキング【座長:増井先生(東京都市大学名誉教授)】でとりまとめ、貨物自動車運送業界へと周知するために地方含めて9箇所でセミナーを開催する。

■経過報告

- 荷主やトラック事業者が実施している有望事例に対してヒアリングを実施
- 4回のワーキングを実施し、有望事例を盛り込んだ手引きを作成(現在、最終編集中)

■今後の活動

- 有望事例を盛り込んだ手引き(主に後半)を使ったセミナー(後述)を開催
- 報告書のとりまとめ

1. 経過報告

3)原価計算の在り方の調査・検討

■調査概要

- 原価計算の仕組みとしては全日本トラック協会が提供する既存システムがあり、精緻な原価計算が可能となっている。しかしながら、あまり使われていない実態があるため、事業者へのアンケートやヒアリングを実施して、貨物自動車運送業界における原価計算の実態を把握し、併せて今後の施策方針を整理することを目的とする。
- なお、原価計算システムの改善方向性が取りまとめられた場合、可能な範囲で既存システムや周知方法などの改善を検討する。

■経過報告

- アンケートは1,200サンプルを回収し、単純集計を終了
- ヒアリングは現在、8社に対して実施

■今後の活動

- アンケートの詳細分析
- ヒアリングの実施ととりまとめ
- 報告書のとりまとめ

1. 経過報告

4)IoTの活用可能性に係る調査・検討

■調査概要

- 中堅・中小・零細の企業が多い貨物自動車運送業界では、ほんの一部の大手を除きIoTの活用は遅れている。言い換えるとIoTの活用には生産性の向上が期待できる。しかしながら、投資力に乏しい業界特性から効果的なIoT活用が必要となる。ここでは既存のIoTの中でも法定3要素以外の多機能デジタコと、ETC2.0に着眼し、既存機能の実地検証を実施し、IoTを使った生産性向上について、既存機能で可能なものと、今後の機能拡張で期待できるものを整理する。
- 実地検証から、既存IoTの能力を把握し、貨物自動車運送事業における生産性向上に資するツールとして将来のあるべき姿について検討する。

■経過報告

- 多機能デジタコは、9月10月の2ヶ月間について約10,000台のデータを入手し、解析中
- ETC2.0は、協力頂くトラック事業者の小型トラック20台及び大型トラック19台のデータを入手し、解析

■今後の活動

- 取得データの詳細な解析と分析
- 将来のあるべき姿について検討
- 報告書のとりまとめ

1. 経過報告

2. 調査結果概要

3. モデル事例概要

4. 今後の予定

2. 調査結果概要 10業種 特積み

大手もロットが不十分な路線が発生し、共同化を推進 荷捌の効率化も織り込んだ設備への更新投資が課題

図 特積み業界の特性・課題・施策

業界特性とトラック運送業の生産性向上に向けた課題

◆ 特積みの輸送特性

- ・人口減少と生産拠点の海外移転に伴い荷量減少と供給制約の同時進展が今後も諸課題の根本原因に
⇒ **上り下りの貨物インバランス**が深刻化
⇒ 大型車両、**長距離輸送における運転手不足**が顕著
- ・特積み業は、労働集約産業である上に装置産業（トラックターミナル等の拠点を使ったネットワーク化）としての側面をもつ
⇒ **拠点の老朽化**と最適化や合理化の遅れ
⇒ 積替え作業の**人的労働依存**
⇒ **地方貨物の不足**を基本に集配効率の低下や縮小均衡が発生

◆ 業界慣行

- ・手待ち時間の長時間化や附帯作業の負担で荷扱いの負担が増大し、若者や女性の定着率も低下
⇒ 荷扱いの負担が増え、**若者や女性の定着率低下**
⇒ **手待ち時間や附帯作業**

解決施策

● 幹線輸送の効率化

- ・業務委託による変動費化推進、中継・リレー輸送、折り返し輸送推進
- ・大手：資本・業務提携で幹線輸送の共同化推進、鉄道利用
- ・中堅・中小：参入路線の選択と集中、求貨求車ツールの活用

● 積替拠点の再編

- ・NW再編としてターミナルの統廃合や公共ターミナルの活用、都心部からの更新投資（仕分けの自動化）

● 集配・区域の見直し・合理化

- ・集配地域の選択と集中、同業他社との業務提携、持株化による輸送会社再編、デジタルコミュニケーション強化、提携先とのIT化、求車求貨ツールの活用 等

● 荷積・荷卸の省力化

- ・パワーアシスト等の荷扱い補助装置の技術開発、輸送約款の内容遵守

2. 調査結果概要 10業種 建材

配送先である現場が変更される中、3Kのイメージが依然大きい 小商圏の品目が多く、効率化に限界

図 特積み業界の特性・課題・施策

業界特性とトラック運送業の生産性向上に向けた課題

◆ 建材の輸送特性

- ・ 商圏の小ささ(例えば生コンは練り始めから打ち込みまでを1.5時間以内とするJIS規格有)や地域ごとに特異な商習慣の存在
⇒砂利・砂等は**大規模化が難しく**、効率化が進まない

- ・ 全国各地の公共工事や大規模開発に依存するため届け先が変更される
⇒現場に応じた**待機時間**や**持ち帰り**等の遅延事象が発生

- ・ 特殊な車両が多い(ダンプ、ローリーなど)
⇒大型車両を稼働させる時の**特車申請の煩雑さ**

◆ 業界慣行

- ・ 積み下ろしの現場状況(業務分担、契約)が不透明であることによる渋滞・遅延が発生また、低賃金、重労働、危険なイメージがつきまとう
⇒**人材不足**が顕著
⇒**手待ち時間**や**附帯作業**が発生

解決施策

● 配送物流の効率化

- ・ 同業種・異業種の共同化
- ・ ミルクラン方式導入による調達物流の効率化、共同化
- ・ 異なる地域の事業者間での車両の融通
- ・ システム高度化による、配送効率の向上
- ・ 事業者によるIoTの導入

● コンプライアンス遵守の促進とサービスの付加価値が対価の向上につながる仕組みの構築

- ・ 中間物流拠点の整備、調達物流の効率化
- ・ 物流上流・下流過程へのサービス拡張

● 柔軟な制度運用

- ・ 行政による大型車の運用に関する手続きの円滑化
- ・ 波動に対する地域間の備車リロケーションに規制緩和

● 人材の確保・育成(特に地方部で人材確保)

- ・ 女性ドライバーの活用
- ・ トラックドライバーのイメージ向上プロモーション
- ・ 中小企業が手を出せない人材育成の場作り

2. 調査結果概要 10業種 飲料・コールドチェーン

重量物である飲料、冷凍・冷蔵の専用設備が必要なコールドチェーン ミルクラン等の着地基点での共同輸送や、拠点の共同化による共同輸送が有効

図 飲料・コールドチェーン業界の特性・課題・施策

業界特性とトラック運送業の生産性向上に向けた課題

◆飲料の輸送特性

- ・ 飲料は、重量物であり、他の食品と比べて積載できる容積が小さく単位あたりの物流コストが高い。
⇒容積ベースでは**高まらない積載率**

◆コールドチェーンの輸送特性

- ・ 冷凍・冷蔵など、保管・配送に専用の設備が必要。
⇒**設備投資への負荷の増大**
⇒**手待ち時間の発生**
⇒作業環境に起因する**慢性的な人手不足**

◆業界慣行

- ・ 月締めの在庫管理や倉庫賃料から月末の大量出荷と、卸・小売の、翌月の始め受け入れ商慣習
⇒物流の波動要因による**負荷の集中**(特に月末・月初)

解決施策

●ミルクラン方式の導入

- ・ ミルクラン方式を導入し物流効率化の取り組み。小売が主導することで実現。

●パッカー基点の共同輸送

- ・ パッカーでの仕分け等の物流加工を含む高度化も理論的には可能

●長距離輸送の共同配送

- ・ 3PLを通じて一部、共同配送が実現(一部鉄道輸送もあり)

●輸入までを取り込んだコールドチェーンのTC※物流

- ・ 海外からの輸入品も国内物流のTCに集約し、効率化

●保管料金の期限の流動化

- ・ 月末・月初に集中している期限を前倒しとするなど、業界主導での対策

多頻度少量化で積載率の低下がさらに進行 一般的に効率化は進展しているものの、途上の部分も多い

図 自動車業界の特性・課題・施策

業界特性とトラック運送業の生産性向上に向けた課題

◆ 自動車の輸送特性

- Just in Timeに対する積載率の向上が課題
- 帰り荷は空き箱や空きパレット程度
- パレット化も進んでいるが、系列ごとに規格が異なることが多い。
- ⇒ **高まらない積載率** (少量化、荷姿がバラバラ、帰り荷 等)
- 鉄道の限定的な運行時間、旅客優先で定時性が確保が困難、貨物駅との輸送コストから限界
- ⇒ **モーダルシフトの限界**

◆ 業界慣行

- 原価計算により契約交渉はほとんどなく、多くは契約交渉で苦労しているという声もある。
- ⇒ **業界慣行と契約明文化の問題**
- トラックの運転手が納品先で貨物の荷降ろしをするところまでが業界慣行的に行われている。
- ⇒ 契約にない **貨物荷卸しや附帯業務**

解決施策

- 引き取り物流による積載率の向上(ミルクラン)
 - 移行上の課題有
- 輸送事業者による貨物量調整の取り組み
- 工場近くのデポ(一時保管所)の活用
 - デポの設計上の課題
- 荷主と輸送事業者の協議による配送調整
- 契約の明文化
 - 原価計算と運送費用の設定
- 長距離輸送への対応
 - 帰り荷の問題、モーダルシフトの限界
- 荷姿等の規格統一化
- 共同輸送便の展開による小ロット輸送の効率化
- 庸車の有効活用
- 他業務への展開

大手家電量販の拠点で包装ダメージや手待ち時間の増大、契約外の附帯業務の増大 一般家庭への配送や据付時の駐車問題

図 家電業界の特性・課題・施策

業界特性とトラック運送業の生産性向上に向けた課題

◆家電の輸送特性

- ・ 季節変動が大きく、メーカーから家電量販店のセンターへの納品時手待ち時間が繁忙期を中心に発生。
⇒物流センターへの納品時に**手待ち時間**
- ・ 家電製品の包装材は、メーカーは商品保護が目的で、小売店は商品の一部として運用するケースが小型家電の一部高級化と贈答需要で増加し、認識にギャップが発生。
⇒包装ダメージによる**返品対応**
- ・ 据置が必要な家電の配達時の駐車禁止や過度な時間指定への対応。
⇒**住宅地での違法駐車**、厳しい**時間指定対応**

◆業界慣行

- ・ 大型免許保持者が不足し、特に若いドライバーが敬遠。
⇒**大型免許保持者の不足**
- ・ 車側渡しが原則だが、時に着荷主のフォークリフトの荷役や、店舗の荷受バースまでの横持ちが発生。
⇒契約にない**貨物荷卸しや附帯業務**

解決施策

- 手待ち時間や荷役の効率化による積卸のトータル時間の削減
 - ・ 荷受側の時間割対応
 - ・ カゴテナ・パワーゲートの標準化
- 積載率の向上を狙った共同倉庫・輸送
 - ・ メーカーと小売店の倉庫共同運営、異業種間共同配送、出会いの場の設定
- トラックターミナル等を活用した中継輸送の活用による長距離運行の是正
- 包装ダメージにより引取拒否のルール化(業界による許容範囲のガイドライン化)
- 附帯業務の定義と料金請求(契約書への記載)
- 荷役時の路上駐車の削減を目指した制度構築
- 個人向け配送の時間指定条件緩和による効率向上
- 資格取得等によるトラックドライバーの価値向上

生産拠点の集約からコイルセンター等からの直送化が進展 重量物であり特車申請の手間が大きな課題

図 金属業界の特性・課題・施策

業界特性とトラック運送業の生産性向上に向けた課題

◆金属の輸送特性

- 積荷1つで数t~15tの重量があり、積載物の荷崩れが重大事故に繋がる可能性が高く、荷主の課題認識も強い。
⇒積荷が超重量物のため**安全配慮が最優先**
- 都度、特殊車両通行許可制度の取得が必要であり、仕組みも書類を使った旧式で煩雑。
⇒**特殊車両許可の手続きが煩雑**

◆業界慣行

- 車上渡契約だが、着荷主から積下し時の玉掛け作業を求められること、業界慣習化していたが、荷受のコンプラ意識向上から廃止する動き。
⇒**玉掛け業務の撤廃**
- 荷積時の荷繰りで長時間の手待ち時間が発生。装着順の荷降では早く到着し順番待ちが慣習化。
⇒**手待ち時間**は荷主・荷受の意識付けで削減
- 若手・次世代のドライバーが確保できず、高齢化が徐々に進む構造。
⇒**ドライバーの高齢化・人材不足**

解決施策

- 金属物流の特性を考慮した特殊車両通行許可制度の見直し(効率向上)
 - 許可発行に要する期間の短縮に向けた道路情報便覧の整備促進
 - 大型車誘導区間の拡充
 - 厚板拡幅超過時の積載制限の緩和
- ドライバー安全確保のための荷主・元請・陸運による取組
 - 需要横這い見通しでの安全確保と設備更新
 - 積み下ろし作業の安全確保
- 手待ち時間の短縮に向けた取組
 - 手待ち時間短縮のための搬入時間の分散
- 復路便の有効活用

2. 調査結果概要 10業種 紙パルプ

車上渡しが契約の基本だが、荷役等の附帯作業が発生 段ボールの小ロット多品種化で積載率が低下

図 紙パルプ業界の特性・課題・施策

業界特性

◆紙・パルプの輸送特性

- 重量物であり、荷役負担が大きい
⇒ **人材確保が難しく、運転者の高齢化が進展**
- 需要変動の激しさ
⇒ **人員の稼働率の低下**
- 段ボール製品の小ロット多品種化、特殊な積荷形態の存在
⇒ **積載率の低下**
- 到着時間は時間指定よりも日指定が多く、荷受地で早着順での荷下ろし
⇒ **荷受地での荷待ち時間**が発生

◆業界慣行等

- ・ 契約形態は車上渡しだが、実態は運転手が**契約外の附帯作業**を実施していることが多い。
- ・ 運賃の減少の一方で、コンプライアンス重視(過積載の禁止等)することで採算が厳しくなっている。

解決施策

- 運転手獲得・育成のための資金的援助
 - ・ 運転手の給与水準の向上のために荷主との運賃見直しが必要、大型免許のない求職者に取得まで支援を実施、大型免許取得済み求職者の運転手による紹介制度(インセンティブあり)を実施。
- 帰り荷の確保による積載率の向上
- 中継物流拠点の設置による長距離輸送の是正
- 共同倉庫の設置による、手待ち時間の削減
 - ・ メーカー同士の提携で共同倉庫を設置し、共同輸送で荷降時間を削減
- 着荷主と協力した荷降ろしダイヤグラムの作成
- 契約による附帯業務定義
 - ・ 発荷主との契約詳細定義

2. 調査結果概要 10業種 化学

多品種少量化が進展するも、依然ロットは大きい 液体物や危険品は片荷輸送が多い

図 化学業界の特性・課題・施策

業界特性とトラック運送業の生産性向上に向けた課題

◆化学製品の輸送特性

・多品種少量化の進行の一方で、輸送には特殊車両や資格や技能を有する運転者が必要

⇒**ドライバー不足**が深刻化

・液物を運搬するタンクローリーやISOコンテナは他の品目を運べないため、帰りは空荷となる

⇒**低い積載率**

◆業界慣行

・発荷主・着荷主の受入体制が不足

⇒トラックの回転率を上げるため、運送事業者が早朝から順番待ちを実施し、**長時間の荷待ち時間**が発生

・ドライバー育成費(資格取得等)を十分に運賃に反映できない

解決施策

●車両積載率の向上

・メーカー間共同配送

●モーダルシフトの推進

●長距離・直送輸送の削減

●手待ち時間の削減

・荷受け時間の見直し

●適切な雇用体系の設定

・運転手獲得・育成のための資金的援助

●適切な料金体系の設定

2. 調査結果概要 10業種 農産品

中小企業が多くかつ天候に左右される生産者に起因する課題が多数 鮮度が重視されることから流通プロセスで多くの負担がトラック事業へ

図 農産品業界の特性・課題・施策

業界特性とトラック運送業の生産性向上に向けた課題

◆ 農産品の輸送特性

- ・生産量が安定せず、輸送量・輸送先の決定が当日になる
- ・生産規模の小ささ、及び、消費者ニーズへの対応等を理由に、小ロット配送が求められる
⇒ **積載率が高まらず、非効率な配送**となる
- ・迅速かつ丁寧な配送が求められる一方で、多段階の流通構造のため、積み替えが複数発生
- ・特定の時間に輸送が集中
⇒ **長時間の荷待ち時間・荷役時間**が発生
- ・個建ての片道運賃が通常
⇒ **帰り荷確保のため、長時間の待ち時間**が発生

◆ 業界慣行

- ・ピッキング、積み下ろし、仕分け等広範囲の作業をドライバーが担当
⇒ **長時間の荷役時間**が発生
- ・川下の小売り(着荷主)からの要請が強い
⇒ **小売りセンターでの荷待ち時間**や**追加輸送**の発生

解決施策

- 拠点再配置、ネットワーク見直し等による輸送の効率化
 - ・流通販売4団体による共同物流ネットワークの構築
 - ・全農により集約拠点の設置
- ITを活用した生産、受発注情報の管理の促進
 - ・ITを活用した生産・受発注の見える化
- 荷役作業等の効率化の推進
 - ・北海道におけるシートパレットの活用
 - ・卸売市場Aにおけるパレットの共同利用
 - ・農業協同組合Aを中心とした選果場等の集約化
- 施策実施の体制
 - ・方向性を定めるため、複数省庁が参加し、更に民間として各業界団体が参加する連携組織が必要である。加えて、地方ブロック単位または都道府県単位の連携組織が必要である。
 - ・継続的な改善活動が不可欠(PDCAの導入)

2. 調査結果概要 10業種 食品・日用品

小売業界の寡占化が進展し、バイイングパワーがますます増大 異なる現場の諸条件からトラック業への負担増

図 食品・日用品業界の特性・課題・施策

業界特性とトラック運送業の生産性向上に向けた課題

◆食品・日用品の物流特性

- 貨物の小口・多頻度化がさらに進展し、発注単位が小口化
- 輸送量の地域間の偏り
⇒ **車両積載率の低下**

- 食品・日用品の輸送に関する到着時間の指定
⇒ 特定の時間帯にトラックが集中し、**長時間の荷待ち**が発生

- 多種・多様な商品が大量に流通
⇒ 荷姿が統一されておらず、**荷捌が非効率**
・ **膨大な検品作業**

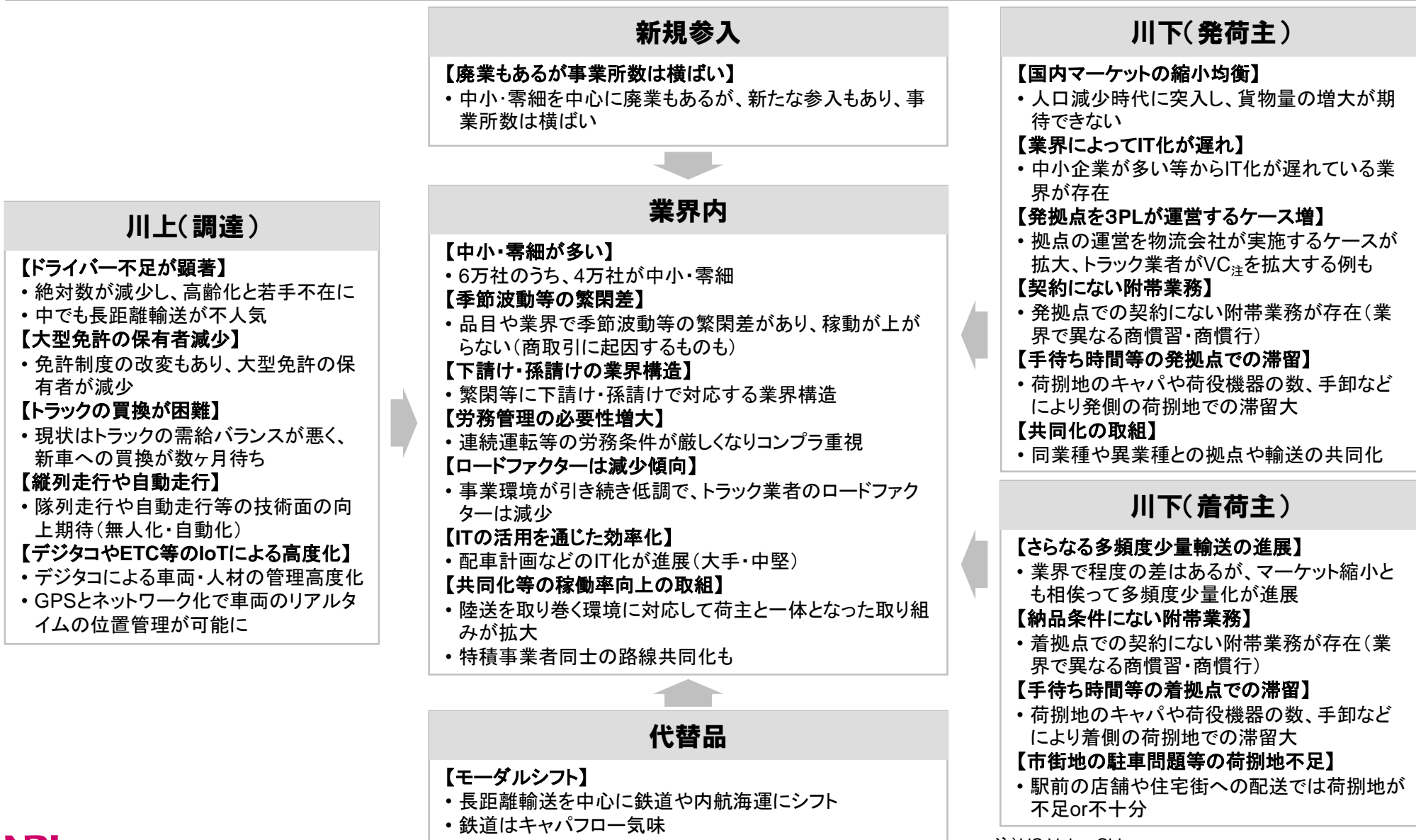
■業界慣行

- 荷主側が圧倒的に強く、**契約にない附帯作業が恒常的に発生**
(商品陳列、包装材の整理・持ち帰り、荷解きと一個一個の立会い検品等)
- 「料率*」という**特殊な課金体系**が存続
*料率: 商品価格に一定の率を乗じて物流費とすること

解決施策

- **車両積載率の向上**
 - 3PL活用による共配の促進、異なる温度帯混載可能な車両・センターの導入、引き取り物流による効率化
- **小口多頻度配送の抑制**
 - 発荷主間連携による小売との交渉力強化、発注支援システム導入
- **荷姿の標準化**
 - パレタイズに応じたマテハン機器※・車両の設計
- **検品作業の省略化**
 - メーカーとのデータ共有によるノー検品推進
- **手待ち時間解消**
 - カテゴリ別納品時間枠設定と事前予約制の導入、店舗への夜間納品
- **適切な料金請求**
 - 車建て・個建て契約の検討
 - 原価開示で適正価格交渉
- **契約による附帯業務定義**
 - 発荷主との契約詳細定義

事業環境は引き続き低調で、川下ニーズへの対応が限界になりつつある



1. 経過報告

2. 調査結果概要

3. モデル事例概要

4. 今後の予定

3. モデル事例概要 モデル事例の選定の考え方

継続的な国内物流の効率化には関係者の連携による取り組みが不可欠 効率化を阻む加害者になっていないか、足元の確認が必要

荷主間やトラック事業者との連携が必至

～ 更なるプラスを目指せ！ ～

- 荷主やトラック事業者による単独の効率化は一巡した状況であり、国内物流の継続するには、関係者が連携した取り組みが不可欠になってきている。

■ 課題認識

- 繁閑差への対応
- 積載率の低下
- 長距離輸送の効率低下

共同輸送や中継輸送等の効率向上のモデル



◆ チェックポイント

- ✓ トラックの積載率が低下していませんか？
- ✓ 納品条件(配送先数や多頻度少量化など)の変更に対してネットワークが破綻していませんか？
- ✓ 長距離輸送の効率が低下していませんか？

加害者であった場合はただちに是正が必要

～ マイナスを0に！ ～

- 手待ち時間等の主に積卸時の非効率が発生している。この結果、トラック事業者の非効率を生み出しているケースがみられる。

■ 課題認識

- 長い手待ち時間
- 検品・検数の待ち時間
- 重労働となる荷役の存在
- 費用が明確でない附帯業務

手待ち時間等の積卸時間の削減のモデル



◆ チェックポイント

- ✓ 手待ち時間や長い検品時間がありませんか？
- ✓ 過酷な荷役をドライバー実施していますか？
- ✓ 契約や納品条件に無い附帯業務がありませんか？

トラック予約受付システムの導入によって手待ち時間削減目指す(70%)

手待ち時間の削減

■ 取組企業名：川西倉庫(株)、(株)兵庫高速運輸、神戸山口運送(株)

■ 取組内容

- 川西倉庫が新規に整備した「六甲物流センター」へ導入されたトラック予約受付システムを当該センターに貨物を搬入する兵庫高速運輸と、当該センターから顧客へと配送する神戸山口運送が利用してもらうことで手待ち時間を目指す。
- 具体的には、神戸港から海上コンテナを輸送する兵庫高速運輸による六甲物流センターへの入荷と、六甲物流センターから顧客へと配送する神戸山口運送が、事前にトラック予約受付システムへと入力してバースを予約することで、手待ち時間を削減していく。

■ 取組に至る経緯

- 川西倉庫の「六甲物流センター」の新設に伴い、効率的な荷受け荷出し作業を実施するためにトラック予約受付システムを導入した。

■ 取組の効果

- 以前の倉庫と比較して手待ち時間が平均70%削減を計画

モデル事例を目指して関係者との調整を実施中

- 現在、取組みが進捗しつつある以下についてもモデル事業化を目指して活動を継続中。

分野	取組企業	取組内容	取組に至る経緯	取組の効果
手待ち時間の削減	食品卸A社	入荷車両誘導のシステム化を図ることで入荷受付簿に記入する際の停車・待機時間を削減し、入荷受付事務所に立ち寄る前に接車バースの誘導が可能とした。構内作業を含めた運用全体の最適化が実現。	メーカー各社の入荷受付効率化を推進すること、メーカーの配送車両を有効稼働させるため、状況照会により見える化を推進すること、メーカー別の実績を数値データにて把握し、課題点や改善点を共有・対策検討することを目的にシステムを導入。	手待ち時間が平均24分(受付時間4分減、手待ち時間20分減)短縮(年間3,744時間)
	倉庫B社、トラック事業E社	倉庫B社の倉庫の敷地内にトラック事業E社のトラック営業所を併設し、連携を密にすることで手待ち時間を削減。	貨物の集約管理を行い、入庫から保管・出庫までの一貫輸送体制を確立するため、倉庫の増築を実施し、敷地内に営業所を設けて連携を強化することとした。	手待ち時間が平均70%削減(見込み)
中継輸送	トラック事業D社	東京と大阪間の長距離輸送をパートナー企業と中継輸送を実施することで共にドライバーの日帰りが可能となる。	コンプライアンスによって効率が落ちる長距離輸送を日帰り輸送に変更するために。	ドライバーの負荷軽減(1泊2日の出張が日帰りになる)

1. 経過報告

2. 調査結果概要

3. モデル事例概要

4. 今後の予定

3. 今後のスケジュール

1)と2)から手引きをとりまとめてセミナーを開催 3)と4)は調査結果のとりまとめを実施

タスク	2016年									2017年		
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1) 荷主業界ごとの商慣行・商慣習の調査・対策検討												
1-1 調査		■										
1-2 コンサルティング						■						
2) 事業の共同化による積載率向上の事例調査												
2-1 事例選定		■										
2-2 ヒアリングなど調査				■								
2-3 ガイドラインとりまとめ						■						
3) 原価計算の在り方の調査・検討												
3-1 実態調査				■								
3-2 課題抽出施策方針								■				
4) IoTの活用可能性に係る調査・検討												
4-1 事前準備		■										
4-2 実証データ取得						■						
4-3 結果のとりまとめ									■			

トラック運送における生産性向上セミナーの開催について

- トラック運送業の取引条件の改善及び生産性向上に向け、全国9ブロックにおいて、取引上問題となる行為や望ましい取引のあり方、共同輸配送などの生産性向上方策等について紹介するセミナーを2月から開催予定。

<プログラム>

1. 取引条件の改善と生産性向上方策に向けた政府の取組について
2. 価格交渉について（価格交渉ハンドブック等の紹介）
3. トラック運送の生産性向上方策（好事例の横展開）
4. 講演：先進事例に関する荷主講演等

- 札幌会場
 - ・日時：平成29年2月28日（火）13:00～16:30
 - ・場所：TKPガーデンシティ札幌駅前
- 仙台会場
 - ・日時：平成29年2月20日（月）13:00～16:30
 - ・場所：TKPガーデンシティPREMIUM仙台東口
- 東京会場
 - ・日時：平成29年2月14日（火）13:00～16:30
 - ・場所：TKP東京駅大手町カンファレンスセンター
- 新潟会場
 - ・日時：平成29年3月3日（金）13:00～16:30
 - ・場所：万代シルバーホテル
- 名古屋会場
 - ・日時：平成29年2月16日（木）13:00～16:30
 - ・場所：TKPガーデンシティ名古屋新幹線口
- 大阪会場
 - ・日時：平成29年2月22日（水）13:00～16:30
 - ・場所：TKPガーデンシティ大阪梅田
- 広島会場
 - ・日時：平成29年2月24日（金）13:00～16:30
 - ・場所：TKPガーデンシティPREMIUM
広島駅前
- 高松会場
 - ・日時：平成29年2月23日（木）13:00～16:30
 - ・場所：高松センタービル
- 福岡会場
 - ・日時：平成29年3月2日（木）13:00～16:30
 - ・場所：TKPガーデンシティ博多新幹線口

NRI

未来創発

Dream up the future.